

## 住化・住武相談室だより

第20号 8月10日

発行 住友化学・住化武田農薬

お客様相談室 0570-058-669

発行責任者 古津 昇

i-農カサイト <http://www.i-nouryoku.com/index.html>

### 目次

新任のご挨拶 住化アグロ事業部長 野口 等・・・	p.1
知って得する防除の仕方	p.2
やさしい農薬の知識(No.12)マコモダケ閑話・・・	p.3
新農薬紹介 天敵農薬「ミドリヒメ」・・・	p.4
小沼さんが語る「農薬のあゆみ」発刊の思い出	p.5
住化アグログループ紹介 住化タケダ園芸(株)・・・	p.6
大家さんと行く「大田市場見聞録」	p.7
今月のお奨め農薬「いもち病防除にブラシン」・・・	P.8
農薬のあれこれ?なぜなに?コーナー・・・	p.9
今月の相談内容から	P.10
病害虫発生情報	p.11
農薬登録情報	p.13
最近の「お・美味しい!」	p.15
コラム・そば談義	p.16
編集後記	p.16



「トラツグミ(ヒタキ科)と  
ナツツバキ(バラ科)」  
技術顧問 富樫 作

### 新任のご挨拶

## 目指すは技術とサービスの住化アグログループ!

住友化学(株)アグロ事業部 事業部長 野口 等

6月23日付で住友化学アグロ事業部長に就任致しました。

日頃から皆様の住友化学アグログループに対するご支援、そして「住化・住武相談室だより」のご愛読に深謝しております。また、農業現場の皆様におかれましては、本年は大変な天候不順に加え、原油価格の高騰、農薬のポジティブリスト制度の導入等、ご苦労されていることとお察し申し上げます。

このような厳しい環境の中、既に皆様もご存知の通り農水省は平成17年3月に「食料・農業・農村基本計画」を策定し、グローバル化を余儀なくされて

いる日本農業の現状を踏まえて、21世紀の農政改革に着手しております。この根幹は「や



る気のある担い手や新規参入者」による国際競争力のある日本農業の再生であります。農水省によると平成16年の「土地持ち非農家数」が全農家数の40%ですが、平成27年には同比率が70%を上回る事態を想定しており、農耕地の集約化とその効率的運営による食料の安定供給が、今後の日本農業の最大の課題としております。そして、農水省はその課題克服のため具体的な農業諸施策を次々と打ち出し強化して行くものと考えられます。

さて、私ども住化アグログループは農薬、肥料その他農業関連資材等のハードを農業現場の皆様にご提供させて頂いておりますが、今後はこのような日本農業を取り巻く環境や農業政策の変化を確実に捉えて、更に農業現場の皆様にも少しでもお役に立てる商品やサービスを考えております。

例えば既にご紹介しています、農業経営支援システム、土壌診断、迅速農薬分析システムなど競争力のある生産システムやコンサルティング機能付きソフトを今後更に充実させていきます。日本企業である住友化学が日本の農業現場で皆様が抱えておられる課題に、直接お役に立つ「技術とサービスの住友化学アグログループ」を目指してまいりますので、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

[目次へ戻る](#)

## 知って得する防除の仕方

暖地性の害虫であるハスモンヨトウは、関東以西で年5～6回発生します。

地球温暖化の影響なのか、発生地域が徐々に拡大しております。発生は4月上旬からで、フェロモントラップに誘殺され、8月～10月が最も多くなります。卵塊からふ化した幼虫は集団で葉裏から食害します。中老齢幼虫は葉を暴食し、果実の表面のみならず果肉の中まで食害するので商品価値が著しく低下します。有効な農薬は多くありますが、ここでは発生する密度を広域的に低下させる防除についてご紹介いたします。

フェロディンSLは、ハスモンヨトウのメス成虫が出す性フェロモンを基に製剤化したものです。フェロディンSLを設置することによりハスモンヨトウのオス成虫を広域的に大量に誘殺することができます。オスの密度が低下すると交尾の機会が少なくなり、次世代幼虫の発生密度が低下します。薬剤の散布回数を減らせます。発生予察にも使用できるので適期防除ができます。また、薬剤登録の少ないブロッコリー栽培地帯等でも設置ができるので朗報です。

設置方法は簡単で労力がかかりません。フェロディンSLを1個取り付けたトラップ(フェロモン用補虫器：ファネル型トラップ)を、圃場の周辺に約50～100m間隔で高さ約1mから1.5mの高さに設置し固定します。1ヘクタール当たりの設置数は2～4個です。被害を軽減するためには、成虫の密度の低い発生初期(4～5月)から終期まで連続的に使用する必要があります。なお、本剤は1.5～2ヶ月間で誘引効果が低下しますので、新しいものと交換する必要があります。本剤はハスモンヨトウの加害作物の栽培地帯であれば全て使用できます。

フェロディンSLは天敵などへの影響はほとんどなく、薬剤抵抗性が発現することの心配のない防除法です。但し、ハスモンヨトウの防除は本剤の性質上即効的でないため、農薬と組み合わせたりして総合的な防除を行う必要があります。

(富樫)

[目次へ戻る](#)



フェロディンSLとファネル型トラップ

## やさしい農薬の知識 (No.12) 【番外編】

## マコモタケ閑話

マコモタケは、マコモ（真菰）というイネ科多年生の植物に、黒穂菌というカビが付いてマコモの根元の部分が膨らんだものを言います。中国料理の高級食材として使われていますが、国内でも量は少ないですが水田転作用の作物として栽培されています。

このマコモタケになるマコモにニカメイチュウが発生するのですが、殺虫・殺菌・除草剤を含め、マコモタケに農薬登録があるのが唯一、弊社のパダン粒剤なのです。使用方法は10アール当り4kgの散布で、全部で3回まで、収穫75日前まで使えます。除草剤は使用出来ないので、雑草は除草機又は手取りで取り除きます。病気は発生しないそうです。また、マコモの根元がマコモタケになるためには、黒穂菌が寄生して茎が肥大しなければならぬので、殺菌剤を使用する訳にはいきませんね。

下の写真がマコモが植えられた様子ですが、まるで稲の成苗のようです。元々沼地に生育していたものなので、水田転作に適しています。植付けは1m×1.5m当たり1株の密度です。

マコモタケを食べたことのある人は少ないかもしれませんが、マコモは昔から身近にあった植物です。演歌第一号とも称され、「おれは河原の枯れススキ～」で始まる「船頭小唄」

（野口雨情作詞・中山晋平作曲：大正10年）の三番目の歌詞には「枯れたマコモに照らしてる潮来出島のお月さん わたしゃこれから利根川の、船の船頭で暮らすのよ」とあります。

地名にも、三重県三重郡菰野町（こものちよう）という場所があります。その地を開拓する前はマコモが生えていた原野であったことから、その地名がついたそうです。同じ三重県の伊勢神宮では、神事に使う藁に、稲藁や茅（カヤ）ではなくマコモを使います。

ずっと時代を遡って弥生時代に稲作が日本に伝播する前は、沼地に生えているマコモをワイルドライスとして食料にしていました。なお、現在マコモタケの生産用に使われているマコモの品種は、日本の在来種ではなく、中国原産だそうです。（鈴木）

付記：本文に掲載の写真は、三重県中央農業改良普及センターの西島様のご好意により同センターのホームページから転載させて頂きました。厚く御礼申し上げます。

[目次へ戻る](#)





**新農業紹介**

## 天敵農薬「ミドリヒメ」

「ミドリヒメ」は、トマトやナスなどの葉に絵を描いたような食害痕を残す害虫ハモグリバエ類を防除する天敵昆虫です。「ミドリヒメ」は、琉球産経株式会社と共同開発を行い、琉球産経株式会社、協友アグリ株式会社とともに、トマト、ナスを中心とした施設栽培分野で普及します。



1. 「ミドリヒメ」は、ハモグリバエ類の土着の天敵です。

ハモグリバエ類は、海外から侵入した害虫です（マメハモグリバエは1990年に、トマトハモグリバエは1999年に国内で発見）。本害虫は合成化学農薬では防除困難とされ、作物の葉の外観の悪化、収量の減少、作物を枯らす等の被害を与えます。

「ミドリヒメ」は、このハモグリバエ類の天敵であるハモグリミドリヒメコバチを有効成分としています。ミドリヒメは、日本に広く分布する十数種類以上の土着種の寄生蜂の中でも優先種とされています。体長は0.8～1.6mmで、体全体が金属光沢を帯びた青緑色に輝いてます（写真）。

2. 「ミドリヒメ」はハモグリバエ類に寄生して密度抑制をします。

「ミドリヒメ」は、成虫25頭を15mlのプラスチックボトルに入れた製品です。使用量は、10アールあたり100頭、製品ボトル4本です。（写真）

作物への処理はボトルから直接放飼することにより行うため、簡単に行えます。

ボトルから旅立ったミドリヒメは、ハモグリバエ類の幼虫を探しにいきます。ハモグリバエ類の幼虫の体液を吸汁すると共に幼虫体内に産卵し幼虫を死亡させます。孵化した「ミドリヒメ」の幼虫はハモグリバエ類の幼虫体内で成長し、羽化します。羽化した次世代の成虫は再び別のハモグリバエ類の幼虫に産卵し、これらを繰返して次々と増殖しハモグリバエ類の密度を抑制する事により、作物を保護することができます。

3. 上手な使い方

早めの放飼が効果的です。食害痕を見つけたら、放飼してください。まず、1週間間隔で3～4回放飼してください。

ミドリヒメに影響のある農薬を放飼前に使わないでください。

施設の開口部にネットをはり、ハウス内でミドリヒメを逃がさず増殖を繰り返させてください。

ミドリヒメを含めて天敵に影響の少ないプレオフロアブルでハモグリバエ類の密度を下げてから放飼するのも効果的です。

天敵を使った防除が初めての場合は、お近くの防除所等にもご相談ください。（石井）



[目次へ戻る](#)

## 小沼さんが語る「農薬のあゆみ」発刊の思い出

昭和35年に、今の『農薬要覧』の原型となる「農薬のあゆみ」を、植物防疫課新設10周年記念事業として発刊する際、小沼さんは多大な尽力をされました。その当時のことをインタビューしました。

小沼さんが農水省に行政職として入省したときは、まだ肥料や農機具と比べて農薬の歴史は浅く、統計資料など全くなかったそうです。

農薬行政を進めるに当たって、まずは統計資料の整備が絶対条件と考え、ゼロからのスタートとなりました。当時は、統計学がまだ発達していなかったことや、コンピューターもなかったため、膨大な計算に大変なご苦労をなされたそうです。



そこで、大手農薬会社二社の担当役員さんのご好意により、各社から女性1人ずつを派遣頂き、農薬工業会の会議室とかその会社の会議室などで、膨大な資料を二人の女性の手を借りてそろばんで計算して作成しました。

本資料作成のもう一つの大きな理由としては、市町村に農薬の補助金を配分するとき、どうしても統計資料が必要という事情がありました。そのために農薬の使用量・金額を各県から集め農協統計や農林統計を活用して、自分達がまとめた統計資料と照合し、その整合性をチェックしたとのこと。因みに、当時の農協数は16,000（特殊農協含む）くらいでした。現在は合併等で842農協（H18.8.1現在）ほどに減っています。

また、本書の特色である農薬企業の経営分析を作成するにあたり、企業経営、企業会計などは全く未知の分野だったので、各社の経理の専門家に色々指導を仰ぎながら、ゼロからの勉強に多くの時間を費やしました。しかし、この作業で企業経営に関するノウハウが習得でき、その後それをベースに多くの経営の仕事に貢献することが出来ました。これも当時お世話になった関係各位のおかげと大変感謝されています。

### 小沼良明氏のプロフィール

昭和23年 農林省農政局資材課(農薬・農機具)  
 昭和26年 植物防疫課  
 昭和39年 住友商事(株)に転職(農薬課)  
 昭和54年 東部化成・西部化成両社社長(住商兼任)  
 昭和55年 住友商事(株)農薬第一部  
 平成元年 住友商事(株)退社  
 " 東部・西武化成社長継続  
 " (株)アグロス副社長  
 平成6年 3社の役員退任  
 平成6年～10年 住友化学(株)アグロ事業部顧問

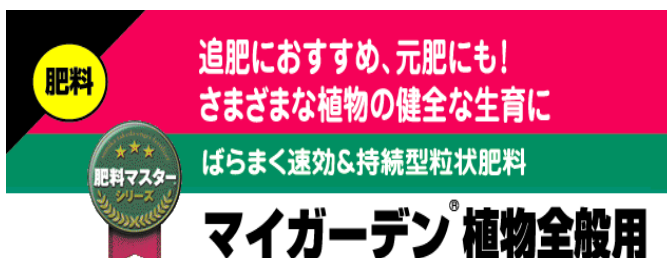
さて、苦労して作成した本書ですが、500部限定で製本され配布したそうです。そして、各社からもっと欲しいとの要望が数多く寄せられましたが、増刷はされなかったようです。

最後に、残念なことが二つあるそうです。一つは、各県に依頼して調べてもらった資料が、すべて集まらなかったことと、苦労して作成したご自身の所蔵の一冊が、どこかへ行って未だに還って来ないことだそうです。小沼さんから借りられた方は、ぜひこの機会にお返し下さい。これは、切なるお願いです！（古津）

[目次へ戻る](#)

## 住化アグログループ紹介

## 住化タケダ園芸(株)



マイガーデン植物全般用の肥料成分はすぐに効いてその後も安定した効果が持続(2~3ヶ月)する3ピーク・ブレンドです。さらに土に活力を与える腐植酸を配合しています。生育中の植物をもっと元気に、もっと健やかに育てる、ばらまくだけの粒状肥料です。

## 【特長】

- 効きめがはやい! 追肥におすすめ
- 元肥としても使える
- ニオイが少ない

## 【使用方法】

地植え植物の場合(追肥・元肥)

標準使用量・草花(花壇)

バラなどの花木類 庭木・果樹・菜園は 150g/m<sup>2</sup>

球根(花壇) 芝生・グランドカバー は 100g/m<sup>2</sup>

ハーブ類 は 70g/m<sup>2</sup>

コンテナ栽培の場合(追肥・元肥)

標準使用量

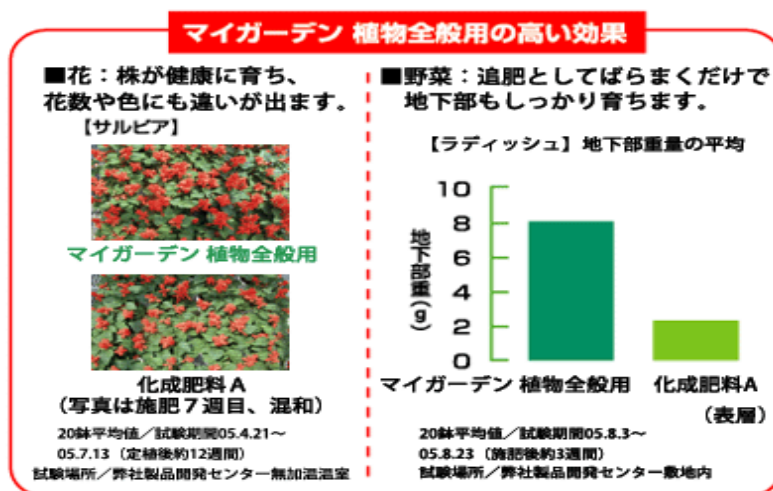
コンテナ・プランター類は 5g/用土リットル

標準プランター(65cm)は 60g 鉢の場合は 4号 2~3g 5号 5g



上記使用量を目安に植物の生育にあわせて加減してください。

生育期に液体肥料(花工場シリーズ)と併せて与えるとさらに効果的です。



[目次へ戻る](#)



\* 大家さんで行く「大田市場見聞録」…

## 工夫次第でトマトは魅力的な商品に！

広い大田市場を見学し、セリも終わった頃、大家さんに連れられて同じ敷地内にある東京青果(株)の村松課長に面談しました。そして、青果市場の現状と将来についてお聞きしました。

第一声が、「最近の青果物は儲からない」でした。その理由は二つあり、一つは「生産物が大量に出回り年中品薄感がない」ことです。もう一つは「大型スーパーや生協が直接農家と契約栽培することで価格がそちらに引っ張られ、値が上がりにくい」ことです。

唯一、工夫次第で儲かるのはトマトだそうです。特に、外観がきれいで、糖度が十分乗った美味しいトマトはよく売れます。実際、アムスメロンよりフルーツトマトの方がよく売っています。但し、付加価値をつけて売るには、出荷に工夫が必要です。トマトを入れるパッケージのデザインを工夫したり、特長があるトマトを扱ったりしないと売れません。また、新品種や非常に糖度が高いものや、特裁・JAS規格品も今後目玉になりそうです。トマトの購買者層に、次のような傾向があります。大玉系は中高年、中玉・小玉系は若い世代がよく買ってくれます。若い奥さんをターゲットに、中・小玉トマトを可愛い化粧箱に詰めて、そこに調理方法を書いたものを入れておけば、購買意欲を掻き立てよく買ってくれます。

さて、長引く青果物価格の低迷が原因で、多くの卸・仲卸が合併しています。また、最近では農家数が顕著に減少しています。理由は、高齢の農家さんが完全にリタイアし、それを補う後継者が本当に少ないからです。よって、近い将来は買い手市場が逆転し、売り手市場になることは間違いありません。それは少ない生産物を取り合いになるからです。また、こんな声も聞かれます。大手のスーパーや生協は契約農家に化学肥料や農薬を出来るだけ控える

ように云いますが、その結果として年々収量が減少し、品質も劣るなどの現象が起きています。そして、そのことが原因で確実に農家さんの収入が減っています。よって、今後は市場に出荷する農家さんが徐々に増えてくる可能性があります。ところで、スーパー・生協側にも厳しい事情があります。契約栽培で買ったものがすべて売れるものではありません。実際、売れ残った青果物を大量に破棄している現状があります。よって、スーパー側も青果物では殆んど儲かっていないというのが実態です。そんな理由から中小のスーパーは必要な分だけ市場に買い付けにきています。

今後、中国が日本への輸出を止め、青果物を大量に輸入する国に転じる可能性があります。すると青果物の価格が高騰することになります。もしかしたら、国内で日常茶飯事である食料の大量破棄や食べ残しが、近い将来は夢物語になるかもしれません。(古津)

\* 大家さん...日本エコアグロ(株)でトマトなどのバイヤーの仕事に従事しています。

[目次へ戻る](#)

## 今月のお奨め農薬

# いもち病防除にブラシンフロアブル

いもち病の感染好適条件を調べる BLASTAM 判定の結果、東北では7月上旬に感染好適条件を記録した日が多く、7月12日付けの山形県を始めとして、東北・関東・北陸・中部地方などで注意報が出され、いもち病の発生地域が広がっています。

いもち病はいもち病菌に汚染された種籾により、苗いもち病が発病します。それが本田に持ち込まれて感染に適した条件になると、葉いもち病が発病します。葉の病斑上にできた胞子が飛散し、葉節いもち、節いもちが発症します。出穂期に感染すると白穂、穂首いもち、枝梗いもち、籾いもち等になります。穂いもちは、直接収量や品質に影響しますので必ず防除が必要です。

いもち病に卓効を示すブラシンは2つの成分を含んでいます。その一つ「フェリムゾン」は住化武田農薬が開発した成分で、稲に散布すると稲自身が持っている防衛機構を働かせる効果があります。稲体への侵入阻止効果（予防効果）はいもち病菌の発芽管の伸長を抑えて稲体への侵入を阻害します。既に侵入した菌糸（治療効果）に対しては生育抑制により病斑の形成を阻止します。不活性病斑と胞子の形成阻止により新しい胞子ができず、二次感染を防ぎ、地域への病害の拡大を防ぐことができます。もう一つの「フサライド」は、いもち病菌が稲体に侵入する時につくる付着器のメラニン色素をつくらせず侵入菌糸の侵入を阻止します。二つの成分により予防と治療効果が得られます。

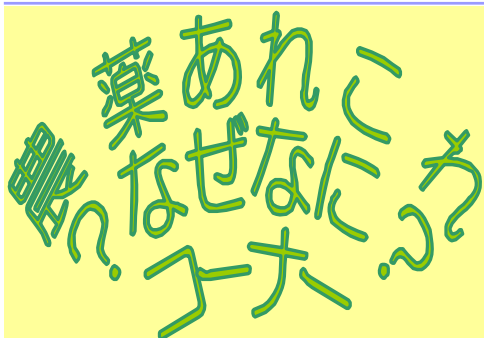
更に、フェリムゾンはいもち病菌以外の病害にも効果が高い薬剤です。登録は、ごま葉枯病・穂枯れ・変色米・褐条病・内穎褐変病・もみ枯細菌病・墨黒穂・稲こうじ病にあります。これらの病害による減収を防ぐだけでなく、病原菌等に幅広く作用して「美しい穂」に仕上げるので、高品質の米の生産や種籾の生産現場でも広く使用されています。ユニークな作用性を有するブラシン剤は、他剤耐性が見られるいもち病菌に対しても十分な効果を発揮します。

製剤には粉剤DL・水和剤・フロアブル・ゾルがあり、地上散布・パンクル散布・空中散布（空中散布・無人ヘリ）が選べます。混合剤には、紋枯病防除を目的とした混合剤や、稲の害虫対策を目的としたパダン剤・ダントツ剤・ジョーカー剤・トレボン剤との2種・3種混合剤があります。各地域の発生状況にあわせてご使用ください。（富樫）



[目次へ戻る](#)





## 暑い時の農薬散布 は大変です！

### ご質問

いよいよ、8月に入り、夏本番です。私の住む地域もようやく夏らしくなってきました。

昼間などは、カンカン照りのじりじり暑さで、外に出ているのもしんどいくらいです。とはいえ、そんな時でも虫も病気も雑草も待つてはくれません。農薬散布をしなければいけないのですが、昼間の暑い時間に散布するのは労力的に大変です。また、散布した農薬がこの暑さによって、作物に何か影響しないか心配です。

### お答え

高温時の散布で特に問題のある薬剤は、注意事項の中に「夏期高温時の使用はさける」などの記載があります。理由として、昼間の暑い時間帯というのは、植物も蒸散作用が盛んで、水分が十分でない場合には葉がしおれるなど、植物自身も弱っている状態だからです。このような時に、農薬を散布された植物は、普段なら何ら問題がなくても、弱っている状態のために、それが引き金となって、障害が生じるおそれがあります。

散布者自身も大変ですし、植物にもよくありませんので、昼間の暑い時間帯の散布はひかえて、早朝または夕刻の涼しい風のない時間帯に散布されることをお勧めします。

(佐伯、稲葉)



[目次へ戻る](#)

**今月の相談内容から****水稻のカメムシ防除に****「ダントツ粉剤DL、ダントツH粉剤DL」****質問**

昨年カメムシの加害により、斑点米が多数発生し、等級落ちになり大変困りました。今年は重点的に防除をしたいので上手な使い方を教えてください。

**回答**

斑点米を発生させるカメムシ類には「アカヒゲホソミドリカスミカメ」「オオトゲシラホシカメムシ」「クモヘリカメムシ」「ミナミアオカメムシ」「ホソヘリカメムシ」その他数種があります。

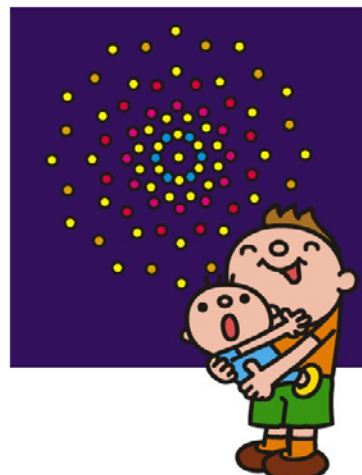
カメムシの種類により異なりますが、林や下草の中、畦畔、休耕田での雑草地などで越冬し暖くなると越冬場所から出てきて周辺のイネ科雑草上で交尾・産卵します。稲が出穂を迎えると稲の穂を吸汁加害をします。乳熟期以前の吸汁加害は不稔になり、それ以降の加害は斑点米になります。稲の品質に与える影響は斑点米の方が甚大です。防除方法は環境整備と薬剤による防除があります。

環境整備では、成虫が水田に入る前の密度低下を狙って水田周辺の畦畔・通路・休耕田・雑草地等の草刈をします。草刈は出穂の2週間前までに終了することが重要です。出穂の間際に草刈をすると行き場を失った成虫を水田に追込みかえって被害が増加しますので注意が必要です。

薬剤による防除では「ダントツ粉剤DL」「ダントツH粉剤DL」を穂揃期前後に散布します。「ダントツH粉剤DL」は高含量粉剤で散布回数の削減と糊熟期までの残効性が期待できます。「オオトゲシラホシカメムシ」のように歩いて水田に侵入するカメムシ対策としては、水田内の散布と同時に畦畔の防除も必要です。粉剤が使いづらい地域には「ダントツ粒剤」があります。使用方法は出穂期～穂揃え期に湛水して田面に均一に散布します。散布3～4日は湛水状態にして、落水やかかけ流しをしない注意が必要です。

これらの剤では、水田の水で溶けた有効成分が速やかに稲体内に吸収され、殺虫効果と吸汁抑制効果を発揮し効果が長期間持続します。又、同時防除効果として、ダントツ粉剤DLはウンカ類・ツマグロヨコバイ・イナゴ類に効果があり、ダントツ粒剤でもウンカ類やツマグロヨコバイが同時防除できます。広範囲の防除には「ダントツフロアブル」があり、有人ヘリ及び無人ヘリコプターの登録があります。いもち病との混合剤には「ブラシダントツ粉剤DL」、「ブラシダントツH粉剤DL」があります

( 富樫 )

[目次へ戻る](#)

## 病害虫発生情報

7～8月初旬に各県から出された病害虫警報・注意報・特殊報から、主要なものをお知らせします。

### 水稻

#### いもち病

岩手・宮城・山形・福島・茨城・栃木・群馬・埼玉・長野・福井・岐阜・愛知・三重・滋賀・兵庫

東日本を中心に、梅雨明けが遅れたことから葉いもちが多発傾向にあり、穂いもちの発生が懸念されています。出穂期頃の穂いもち防除は必ず行い、葉いもちの発生が多く見られる場合は、治療剤を散布してください。

ブラシン剤は予防・治療の両方の効果を有しておりますので、葉いもち発生時の散布と、穂いもちの予防散布のどちらでも使用できます。

また、ブラシンはいもち病以外の穂枯れ、変色米、稲こうじ病、もみ枯細菌病、内穎褐変病などの同時防除が可能です。



#### 斑点米カメムシ類

警報：宮城

注意報：青森・岩手・新潟・富山・石川・福井・愛知・京都・島根・徳島県（6月：宮崎・鹿児島）

斑点米の発生による品質低下を防ぐため、出穂期頃より徹底した防除が必要です。

ダントツ剤による防除がお勧めです。

省力的に散布できるダントツ粒剤は出穂期～穂揃い期に使用すると効果的です。

ダントツ粉剤あるいは、いもち病防除剤ブラシンなどとの混合粉剤、ダントツ水溶剤と、スミチオン剤など種々の剤の体系により2～3回の防除が必要です。



#### トビイロウンカ

福岡・長崎・熊本・宮崎・鹿児島県

四国及び九州の一部で飛来量が多いとされています。非常に増殖率の高い害虫です。

水稻の株元を注意深く観察し、成虫及び幼虫が100株当たり20頭以上発生していると、薬剤防除が必要です。

ダントツ剤や、コブノメイガとの同時防除剤として、パダンバッサ粉剤・粒剤、パダンミプシン粒剤などで防除してください。

### 果樹全般

果樹カメムシ類：福島・茨城・奈良・山口・佐賀・長崎県

今年は越冬密度が高く、早い時期から果樹園へ飛来しています。飛来量は園地により異なりますので、園内でカメムシの発生を見かけたら早めの防除に心がけてください。

当社の果樹カメムシ類防除薬剤としては、アグロスリン水和剤・乳剤、アディオン乳剤・フロアブル、ロディー水和剤・乳剤などの合成ピレスロイド剤、ダントツ水溶剤、スミチオン



水和剤・乳剤があります。

(薬剤により、使用できる作物が異なりますので、ご確認の上でご使用ください。)

### かんきつ類

かいよう病：高知県

果実への感染と発病は落花直後から9月下旬まで多いので、8～9月にかけて3回程度薬剤散布をしてください。台風の影響が予想される場合は、事前に薬剤散布を行い、できなかった場合は、台風通過後直ちに薬剤散布してください。



バリダシン液剤5は、病原細菌の増殖を抑え、時期を選ばずに散布できますので、ローテーション散布の1剤として、ご利用ください。

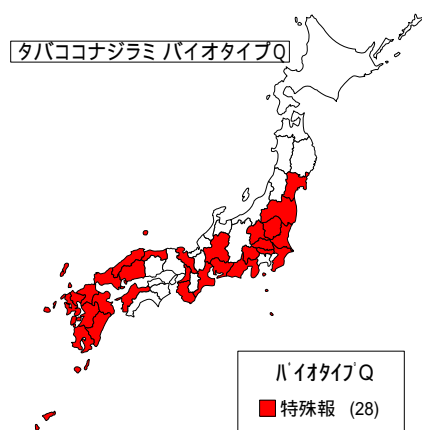
### タバココナジラミ バイオタイプQ

和歌山・愛媛県

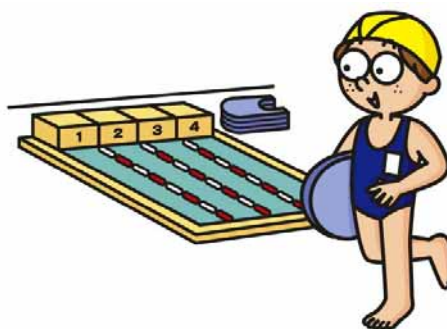
シルバーリーフコナジラミ(バイオタイプB)との形態による区別は、現時点ではできません。従来のコナジラミ防除薬剤に対しては、感受性が低い系統ですが、ベストガード剤の効果は、このQタイプでも優れているという試験報告があります。

また、トマトでは粘着くん液剤も効果が期待できます。コナジラミ類の防除は、薬剤による防除だけではなく、施設の開口部に防虫ネット(0.4mm目以下)を張るなどの対策も同時に行う必要があります。

7月末現在28都府県で特殊報が発表されており、九州から南東北まで広まってきております。(稲葉)



[目次へ戻る](#)



**農薬登録情報**

7月19日、31日の適用拡大内容です。

薬剤名	変更点	作物	病害虫名	使用量	内容
ST DDVP 乳剤	作物 追加	おかひじき	アブラムシ類	2000倍	21日前/2回/散布
		おうぎ	アブラムシ類	1000倍	7日前/5回/散布
		とうき	アブラムシ類	1000倍	7日前/5回/散布
		パセリ	アブラムシ類	2000倍	14日前/5回/散布
		やまのいも (むかご)	アブラムシ類	1000 ~2000倍	14日前/6回/散布
		リーフレタス	アブラムシ類、 ヨウムシ	1000 ~2000倍	7日前/2回/散布
アグロスリン 乳剤	作物 追加	未成熟ささげ	アブラムシ類	2000倍	前日/3回/散布
		葉にんにく	ネギアザミヤ	2000倍	前日/3回/散布
		らっきょう	ネギアザミヤ	2000倍	3日前/5回/散布
	作物名 変更	しそ(花穂)			しそ(花穂)に変更
ジメトエート 乳剤	作物 追加	かんきつ (みかんを除く)	ミカンバエ	1000倍	90日前/2回/散布
スミチオン 乳剤	作物 追加	オリーブ(葉)	オリーブアザミヤ	50倍	120日前/3回/樹幹散布
		わらび	カガゼンマイハチ	1000倍	90日前/2回/散布
	作物名 変更	樹木類			樹木類に変更
パダンSG 水溶剤	作物 追加	くわい	ハシモトウ	1500倍	30日前/3回/散布
		さやいんげん	マメモガリハエ	1500倍	前日/3回/散布
		はつかだいこん	コガ	1500倍	7日前/1回/散布
ベストガード 水溶剤	作物 追加	食用べにばな(花)	ハゲリハエ	2000倍	7日前/2回/散布
ダコニール 1000	使用時期 の変更	稲(箱育苗)			は種時 は種時から緑化期(但し、 は種14日後まで)
	使用回数 の変更	きゅうり			4回以内 8回以内
		稲(箱育苗)			1回 2回以内
武田 ダコニール 水和剤	使用時期 使用 回数 の変更	稲(箱育苗)	苗立枯病 (リゾプス菌、 トリコデルマ菌)		は種時、1回 は種時から緑化期(但し、は 種14日後まで)、2回

バリダシン 液剤5	作物 追加	だいこん	軟腐病	500倍	21日前/4回/散布
		みつば	立枯病	800倍	育苗期：1回、移植後但し 21日前：3回/散布
ベンレート 水和剤	作物 追加	ふき	葉枯病	2000倍	7日前/2回/散布
		つるむらさき	紫斑病	2000倍	14日前/2回/散布
		べにばないんげん	菌核病	2000倍	60日前/2回/散布
リゾレック ス水和剤	作物 追加	うど	白絹病	1000倍	45日前/2回/散布
		はすいも(葉柄)	茎腐病	1000倍	7日前/3回/散布
		ぎぼうし	白絹病	1000倍 (1L/m <sup>2</sup> )	90日前/2回/株元灌注
		ブロッコリー	苗立枯病 (リゾトリア菌)	500倍 (3L/m <sup>2</sup> )	育苗期/土壌灌注/2回 21日前/株元灌注/1回
		未成熟ささげ	苗立枯病 (リゾトリア菌)	1000倍 (1L/m <sup>2</sup> )	は種時/1回/土壌灌注
		未成熟 とうもろこし	紋枯病	1500倍	14日前/2回/散布
STロブラル 500アケア	作物 追加	いちじく	黒かび病	1000倍	3日/3回/散布
武田トレフ ァノサイド 乳剤	作物 追加	はなっこりー(移 植栽培)	畑地一年生雑草 (ツクサ、ヤツリガ サ、キ・アブラ科 を除く)	200~300 ml/10a	・定植前(植穴掘前)/土壌表 面散布 ・定植後21日前/畦間土壌表 面散布
		食用べにばな(花)		300ml/10a	は種直後/土壌表面散布
		みつば べにばないんげん			は種後発芽前/ 土壌表面散布
		ひまわり(種子)			植付直後/土壌表面散布
		葉しょうが		200~300 ml/10a	・定植前(植穴掘前)(マルチ 前)/土壌表面散布 ・生育期45日前(トンネ ル除去前)/畦間土壌表面 散布
		まくわうり (露地栽培(トンネル・マ ルチ栽培))			定植直後/ 畦間土壌表面散布
		なばな (移植栽培)		200ml/10a	は種直後/ 土壌表面散布
		なばな類 (直播栽培)		150~ 200ml/10a	は種直後/土壌表面散布
		非結球あぶらな科 葉菜類		150~ 200ml/10a	は種直後/土壌表面散布
		かぶ		150ml/10a	



ST ハービー 液剤	作物 追加	さやいんげん	畑地一年生雑 草	300 ~ 500 ml/10a	・は種前又は定植前処理 ・は種後又は定植後畦間処 理、前日
		さやえんどう、実 えんどう			・は種前又は定植前処理 ・は種後又は定植後畦間処 理、7日前
		ぎぼうし			畦間処理、90日前
		にら			生育期畦間処理、前日
		みょうが		300ml/10a 萌芽前処理	
	作物名 変更	豆类(未成熟、ただ し、さやいんげん、 さやえんどう、実え んどうを除く)			「えだまめ」を変更
ST ジベラ錠	作物 追加	アセロラ	着粒安定	25ppm	開花期/花に散布
		清美	落果防止	25~50ppm	満開7~10日後/果実散布
		はるみ	水腐れ軽減	0.5~1ppm	着色終期7日前/果実散布
		メロン	着果促進	200ppm	開花前日~翌日/散布 (4-CPA 剤 50 倍液に加用)

(稲葉・佐伯) [目次へ戻る](#)

## 最近の「お・・美味しい!!」



弊社相談室紅一点!の佐伯がお送りします  
最近の「お・・美味しい!!」  
女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み?の目(笑)で、  
毎月「これぞ!」というものを紹介します。  
どうぞお楽しみに♪♪

### 「夏といえば?(第2弾)・・・う!!」

関東近辺は、8月になるまで梅雨+涼しい=夏?でした。しかし、ここ最近急に暑くなり、さらに日頃の残業もあいまって(笑)私は少々「バテ」気味。そんな時、夏バテの強い味方「うなぎ」を食べてきました。「うなぎ」といえば蒲焼が定番ですが、「関東風」と「関西風」



「皮パリ中ふわ!」の絶品蒲焼!

があるということをご皆さん知っていますか?はい。私は知りませんでした(笑)。この時は「蒸さずに直火で焼く」関西風。初めて食べましたが皮がパリパリッ!としてこれはこれは・・・「む!美味しい~(思わずニンマリ)!」普段食べる時のものはおそらく関東風だったのですね。関東風も美味しいですが、関西風もこれまた違う食感で美味しい!同じ食材でも、調理の仕方で随分と変わるものだな~と感心しました。さらには蒲焼だけでなく「白焼き(わさび醤油で)」「肝焼(これがまた美味しい!)」といただいて、エネルギー充填完了(少々食べ過ぎ)!これでこれからの暑い夏も乗り切れそうです。あと残業も・・・?(笑) (佐伯)

[目次へ戻る](#)

### コラム・そば談義

今年の春に、そば好きが集まって「江戸ソバリエ倶楽部」を立ち上げた。

その倶楽部の会合が終わると、決って蕎麦屋さん廻りをする。先日も飯田橋近くの「卯のや」さんの暖簾を潜った。店は表通りから一本入ったところにあり、店を構えるには少々分かりづらいところである。しかし、自称ソバリエ連中が行く店である。この暑い夏の日でも美味しいそばを出してくれる。

聞くとところによると、この店は元々が老舗（長寿庵）で表通に面していたが、バブル期のころ本業外のことに手を出し店を手放すことになったそうだ。そして、息子さんが何とか店を盛り返すため、元あった店の裏手に開業したのである。蛙の子は蛙じゃないが、老舗の息子さんが打つそばは確かな色艶と風味があり中々美味しかった。

私も営業担当をしていた頃は、得意先が本業以外の商売に手を出した時は気をつけるようにと、上司からよく言われたものだ。理由は、本業がどうしても疎かになることと、専門外の商売はノウハウが少なく、うまくいかないことが多いからである。事実、そのような会社を何度か観てきた。

しかし、代々続いた蕎麦屋を再び盛り返すという息子さんの心意気に、開店を聞きつけた近所の人や昔からの鼻屑客が、徐々に店に帰ってきているそうだ。そんなことを考えると、商売はお客様と長年の信頼関係で結ばれていることがよく分かる。頑張れば、チャンと後押ししてくれる。

ぜひ、我がお客様相談室もそんなお客様が一杯出来るよう、「卯のや」さんに見習って、これからも精進していきたいと思う。

（古津）

### 【編集後記】

長らく居座っていた梅雨前線がどこかに去った途端に、真夏の太陽がキラキラと顔を出しました。甲子園球場では、恒例の全国高校野球が熱戦を繰り広げています。

さて、お客様相談室に寄せられるご質問で、近頃よく目につくのは、農薬のドリフト関係です。最近では畦畔に農薬が飛散した場合、その雑草を牛や羊が食べた場合の安全性について教えて欲しいという内容です。特に、東北や九州地方から寄せられています。回答は、ドリフトの量にもよりますが

「1週間～稲の収穫前日数」ぐらい空ければ、肉やミルクから検出されることはないと説明しています。

ポジティブリスト制度施行後は、このような質問が確実に増えるようになりました。あまり、神経質になる必要はないのですが、暫く落ち着くまでは仕方がないような気がします。



[目次へ戻る](#)